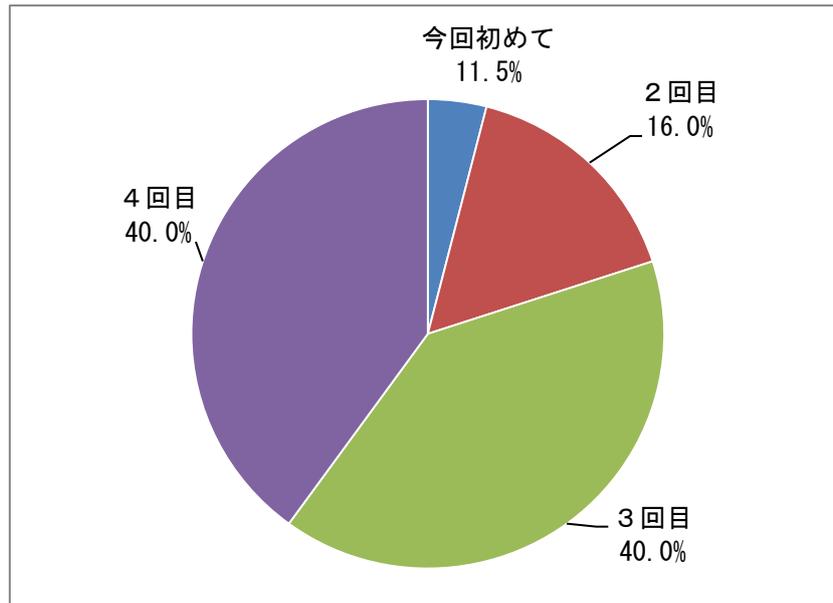


第4回 逗子の未来協議会 アンケート結果

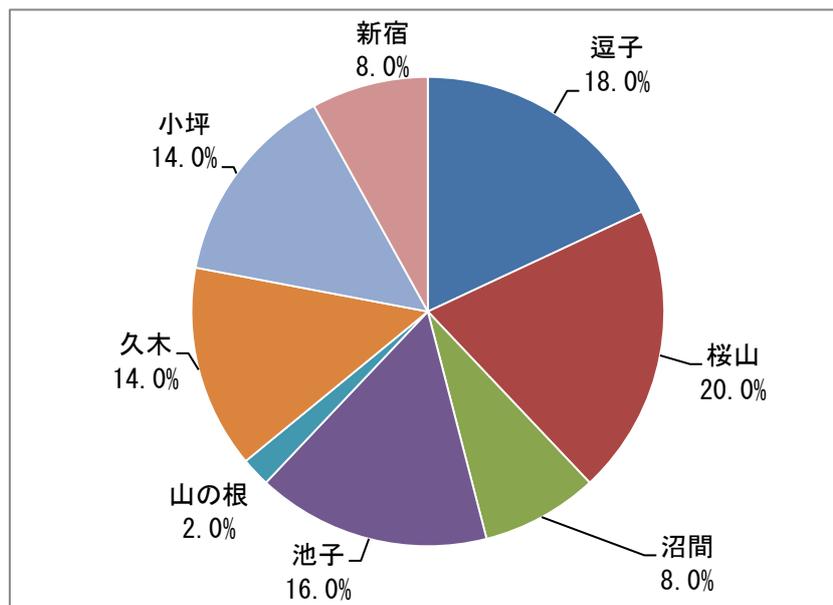
実施日：平成28年10月15日（土）

回収数：50（回収率98%）

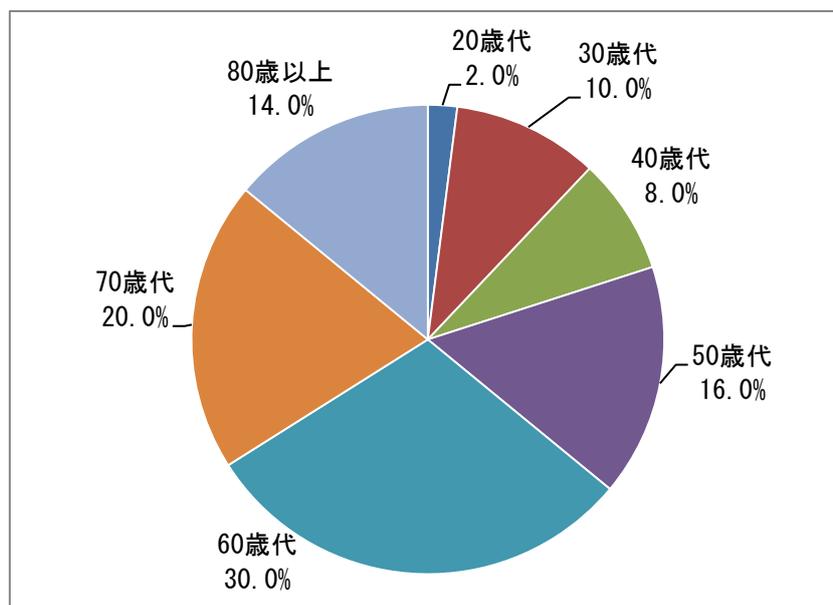
1 第4回参加者の参加状況



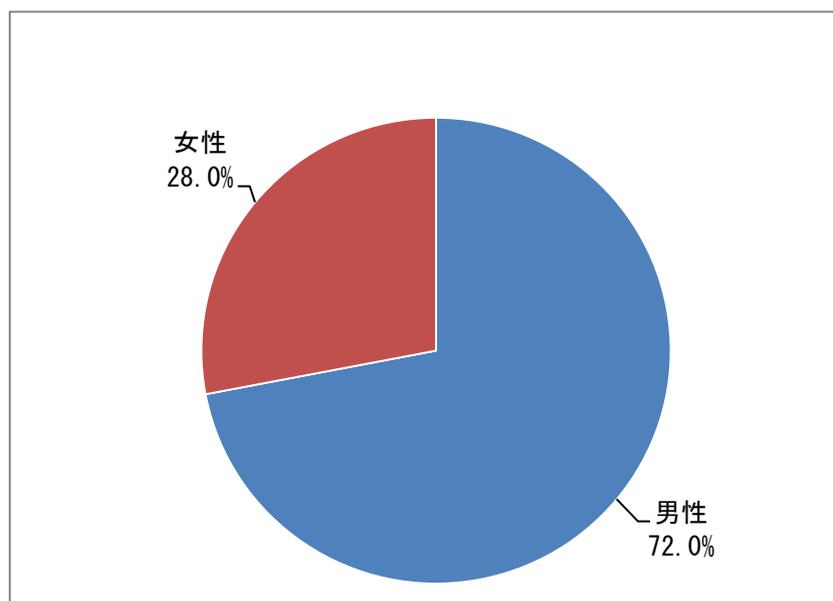
2 第4回参加者の居住地



3 第4回参加者の年代



4 第4回参加者の性別



5 「逗子らしい公共」を表すキーワードになると思った言葉

※意見の後ろの（ ）は同意見の件数

<市民、市民の個性、キャラクター>

- ◆ 市民一人一人のキャラクターが強い ⇒ 行政の補完ができるのではないか
- ◆ 市民の意識が高い。
- ◆ 公共意識が高い住民が自由な発想で考える。
- ◆ 住んでいる人の逗子愛が高い。
- ◆ 人と人の距離が近い。
- ◆ コミュニケーション力がある。人のつながりをもちやすい広報力(みんなの広場)。
- ◆ 逗子に住んでいる人は人柄が温かく公共意識も高いと思う。
- ◆ 温かい／イメージが良い
- ◆ 成熟した市民感覚が多くの人に共有されているようであり、しかもっと個人主義的な理解が求められている。
- ◆ 市民同士の大人の対応
- ◆ 風通しが良い、コンパクト、気持ち良い、ナチュラル、大人として互いをリスペクトする関係性がある、成熟、臨機応変、感じが良い
- ◆ 逗子の民度を活かした公共
- ◆ 民度の高い（専門性の高い）市民が多いまち
- ◆ 多様性（多様な専門性をもつ）
- ◆ 市民の自主・自発性が高い、コミュニティ
- ◆ 気持ちの若い市民が多い
- ◆ 市民が地域資源（海・山・緑）を自主的・自発的に守る、維持する、残す、という意識が高い人が多い。
- ◆ 健康年齢が高い、健康志向・住民意識の高い人の力・気持ちを公共に活用する・生かすことが今後重要であると思います。
- ◆ 大人の町

<市民と行政の関係>

- ◆ コンパクトシティにおける市民と向き合った行政
- ◆ 市民と市役所の距離
- ◆ 市民と市との関係
- ◆ 市民や団体が生み出す発想（※）やスピード
これをフォローし、実現・運用をコントロールする行政
※小さな（コンパクト）市だけにまとまりやすいのでは？
住民のキャラクター（好きで住んでいる人）が濃いのでは？文化度・市民平均所得の高さ。
- ◆ 市民と距離の近い行政（市役所・職員）
- ◆ 声なき声を吸い上げる行政
- ◆ 市役所と市民の距離が近い

- ◆ 市民・行政との風通しが良い。
- ◆ 市民と行政が近い。
- ◆ 行政、市民ともに今までの考え・やり方を見直し、新たに形態を変えることも視野に入れ歩み寄る必要性
- ◆ 市が条例を使い市民がその環境を守る（例：海岸の条例と市民による海岸清掃）。
- ◆ 財源の少ない逗子で、市役所主導で公共的な事業を行うのは限界がある。ボランティア団体や市民と協力して一つの事業や活動を進める必要があるのではないか。海岸でボランティアがゴミ収集活動をしているらしい。市として、回収したごみを処分するなど協調することで公共の事業（活動）ができるのではないか？（一つの例ですが）
- ◆ 住民・行政それぞれがその役割で働き、住みやすい市をつくる。
- ◆ 行政と市民の距離が近い（他の市と比べて）。
- ◆ 行政との距離が近い（身近）。

＜市の規模、コンパクトシティ、立地＞

- ◆ コンパクト、立地、まとまり、個性的
- ◆ 逗子 コンパクトシティ、地形
- ◆ 「コンパクトシティ」
 - ・歩いて市内を移動でき、人口も5万人と市の中心に駅がありまとまっている。市民の意識も高い。
 - ・市の職員もワークショップに大勢参加し、市民と一緒に活発に意見を交わしているので市職員の意識も高くなっている。
 - ・住民と市職員の距離が近い。
- ◆ まちの規模が丁度よい。
- ◆ コンパクトな規模を強みとする。
- ◆ 人口5万7千人、コンパクトな市であることを有効に使い、皆がさらに公共の福祉に関心をもっていけるような施策をうってほしい。
- ◆ コンパクトの良さ…だけど美しい町
- ◆ コンパクトシティの認識をもち行動する。
- ◆ 首都圏であり、通勤が家庭・家族に強く影響している。
- ◆ コンパクト(2)
- ◆ 田舎すぎず、都会すぎず
- ◆ 「便利な田舎」
- ◆ 顔の見えるまとまりのあるまち
- ◆ コンパクトシティ、小回りがきく
- ◆ 素晴らしい自然環境に恵まれているコンパクトな市
- ◆ 小さくて美しい（コンパクトシティ）
- ◆ 逗子を語るベースとして、特性、地域性、場所性を理解が必要。そこから“らしさ”が見えてくると思います。
- ◆ 「美しいコンパクトな街」

- ◆ 小さくて美しいまち（市）
- ◆ 適度な人口密度

<公共の福祉、公共のルール>

- ◆ 逗子は、他の地域（例えば東京・横浜といった大都市）と比べて小さい分、風通しがよくまとまりがある（もしくはまとまる）と思うので、公共の福祉、他人を思いやる心や挨拶等（杉並、世田谷の子どもたちは挨拶すごい！）今では少なくなってしまう日本の良いところがまだあると思う。その中で、これから人口が増える増えないにかかわらず、皆が関心をもつことが大切だと思う。逗子は小さい分、まだまだ可能性があると思います。不利を利点に！
- ◆ 『逗子らしい公共』とは、
 - ①豊かな自然環境に囲まれた暮らし
 - ②コミュニティなど人の交流が盛んな暮らし
 - ③安全で安心な暮らし
 をめざして、行政も一人一人の市民も全員が、必要なときには協働し、自分の利益だけでなく「全市民共通の利益」＝「公共の福祉」を徹底的に考慮して行動すること。
- ◆ 公共のルール・マナーを守る街並みに

<自然環境、美しいまち、地域資源>

- ◆ イメージとしては「きれい」だが実態は？
- ◆ 緑と海
- ◆ 鎌倉時代からの有名人や土地があるのもかかわらず、アピールすることが大切です。
- ◆ 自然が残っていることを大切にする。
- ◆ “緑” “海”
- ◆ 美しい
- ◆ 地域の資源を守る、次世代に残す
- ◆ 海
- ◆ 生活環境を生かす努力と市民が努力する姿勢を
- ◆ 森の自然
- ◆ 自然と利便のバランス

<まちづくり、開発>

- ◆ 自然のまちなみ ⇒ 道が狭い
- ◆ 宅地開発を禁止した。
- ◆ 「自然と快適な暮らしの共生」 住みたい町、子育てしたい町へ
 - ・守るべき、残すべき自然を選定
 - ・快適な暮らしをするために自然の利活用
- ◆ 自然、昔ながらの街並を残しながら、時代に対応しながら変化を進める（現状維持ではなく）。

＜地域自治、地域の活動＞

- ◆ 地域を重要視、個人の意見を第 2 として、第 1 に地域住民として左右、上下を見て地域のため活動するよう「逗子らしい公共」となるキーワードにしたい。
- ◆ 小学校区住民自治協議会の拡充

＜文化施設＞

- ◆ 文化施設
- ◆ 文化施設の充実(2)

＜若者世代の呼び込み＞

- ◆ まず、若い人たちを住民に迎えることと思います。そのために行政を考えていただきたい。財政を増やすために。住民たちは前向きに生活しております。
- ◆ 若い人が住める街に！
- ◆ 市外に越して通勤した人が戻ってこられるようなまちづくりも必要と述べられた。
- ◆ 人口が多くなった時代、子どもだった世代が帰ってこない。

＜高齢化、高齢世代＞

- ◆ 31%の老人力の活用 — 元気な方々が若い人をけん引する。
- ◆ 老人の活用…活躍の場
- ◆ 高齢者対策を充実する。
- ◆ 高齢問題
- ◆ 年寄りに優しい行動（車の運転など）
- ◆ 高齢者に比較的親切

＜団体＞

- ◆ 市役所と一般市民の間で活動する組織 NPO 団体、自衛消防団など
- ◆ 「専門性の高い市民団体が数多くある」

＜その他＞

- ◆ 挨拶をしよう できる街へ
自由な街へ 相手を慮る心をもって
- ◆ 行政の役割多様化（もっと現場に出て活動実態をみる）
- ◆ 手づくりの公共
- ◆ 細かなサービスが受けられる“地”
- ◆ 共に生きていける逗子
- ◆ プライバシーを守るということを注意しながら、多様化に対応できる。
- ◆ ホームセンターはないが、個性的な商店が多い
- ◆ 成熟している
- ◆ 外国人との友和がある

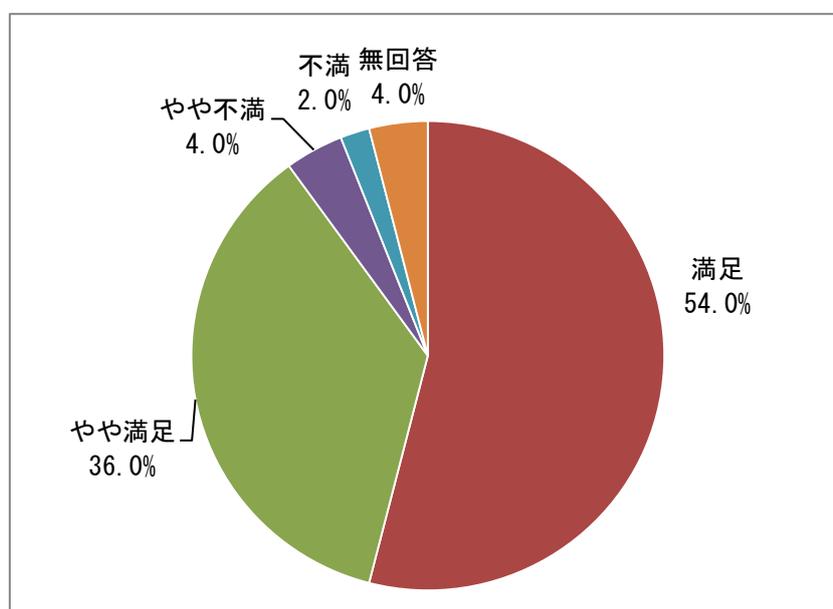
6 本日の話し合いで考えたこと、感じたこと

- ◆ 行政、市議会、住民協議会との連携をより強くすることが大切と思う。行政が住民協議会を全員認知した行動をとることを要望したい。
- ◆ グループに団体の役員の方が2人いて、お話が先へ先へと進み有意義な話し合いを聞くことができました。
- ◆ いろいろな考えを聞いた。皆さん、フランクに意見を言われた。
- ◆ 全員が公共の福祉を意識する⇒これは難しいのでは。やる人とやらない人が必ず出る。出さないようにできるか、出たときにどうする。
- ◆ 「行政はプロ、住民は素人なので、住民は行政に文句を言うな」という従来の観念がなくなってきた。それは、行政が多種多様、複雑高度な業務が増加し、プロというレベルに達する余裕がなくなったからなのか？
- ◆ 逗子市と近隣の鎌倉市、葉山町、横須賀市との違いは何か。「逗子らしさ」を改めて考えると、やはり「コンパクトシティ」(山緑海に囲まれた)がキーワードと思う。
- ◆ 公共に含まれる行政と市民の関係を理解し、活用することができれば、良い逗子市民条例ができるのではないかと考えるきっかけをいただいた。
- ◆ ゴールは共有できていると思うが、そこに至るまでの経路(考え方)はそれぞれ異なるので、非常に刺激になった。世代別、生活環境別(子どもいる/いない、2世帯など)に行政に求めるものは異なると」思うので、詳細な分析が必要になると思う
- ◆ 逗子らしさというのを感じました。
- ◆ 若い人の意見もいろいろでてきて考えは前進しているようです。具体的な課題も少しずつ明らかになっていますが、豊富化できればよいですね。
- ◆ グループの皆さんと「公共」について共有できたこと。いろいろな意見が出ましたがどれも貴重な意見だと思いました。
- ◆ 公は行政、共は住民につながる言葉であり、その強み弱みをうまく調和させることが重要である。それを実行に移すには、双方にリーダーシップをとれる人材が必要。特に住民側の人材発掘は急務。
- ◆ 行政、市民団体でそれぞれに強み、弱みがあることが分かりました。こういう話し合いを通して自分では意識していなかった逗子の良さをいろいろと発見できるのは良いですね。
- ◆ 皆さんいろいろとご意見をもっておられ、大変感銘しました。私は勉強不足で、しばらくは皆さんの意見をお聞きしていきたいと思っています。
- ◆ ①市内のいろいろな地域事情が理解できた。②話し合いの時間が十分とれ、楽しく情報交換ができた。
- ◆ 高齢化は進む中での対応は必要。しかし、子育て等若年層の暮らしやすい環境は重要。ついては市による産業育成や誘致等市内で働ける政策も必要がある。
- ◆ 「公共」はここに今日くる前に大きい国語辞典で読んだが、そこに書かれていることはきわめて漠然としていた。しかし、それを前提にしてかなり議論を深めることができたと思う。少なくとも今まで議論しなかったことを議論することができた。
- ◆ 地元での仕事がない。
- ◆ 池子の自然について最近あまり考えたことがなくなっていた。有効利用できるか？

- ◆ このままでは逗子が衰退していく一方、Q5のキーワードに沿った大胆な政策・施策が必要。
- ◆ 逗子の将来に皆さん危機感をもたれている。この思いを力に変えることができればと思います。
- ◆ 他のグループの人の話を聞いていても、皆さん考えていることが同じようで、まだまだ伸びしろがあってよいと思った。
- ◆ あらためて住みやすい場所。
- ◆ すでにある逗子の気持ちの良い風土をベースに、さらに一人一人が思いやりをもっていくとますます逗子に愛着があり、大好きな街となっていくと思いました。根底にあるのは、逗子が好きだということだと思いました。
- ◆ 一歩踏み込むことで市民でもやれる活動があること、このワークショップに参加することで逗子の魅力を改めて感じる事ができたと思います。
- ◆ 参加された若い市職員の公共サービスに対する認識が高いこと。
- ◆ 移住してくださった方の意見はとても重要、もっと聞いてみたいです。
- ◆ 意識の高い市民が多い。地域によっては自治会活動の高いところがある。
- ◆ 海と山の緑に囲まれたこの地を大切にしたいという気持ちを皆がもっていることを感じました。そのために、自分ができること（掃除、草刈りなど）を実施していこうと思います。
- ◆ お集まりの皆様の意識の高さに驚きました。
- ◆ 実際に既にボランティア活動をしている団体と行政との接点の確認。
- ◆ 最終的には予算（財政）に落ち着く。鎌倉駅に落ちる額の1割でも逗子駅に呼ぶような逗子の魅力をキャンペーンすることが必要。
- ◆ コンパクトな市である強みを活かせる可能性があるのでは。もう少しポジティブな考え方で対応していかななくては。“ピンチはチャンス”をうまく活かせれば。”
- ◆ こうした会議を通じて、市民のつながりが一步一步前へ進められている。次の世代、若い方が住みたい街に向けて。
- ◆ 年長の方が3名いて、地域で活動されている。素晴らしいことと思う。
- ◆ 市と市民の関係について議論して、双方の特性をいかにうまく運営していくか、広い視点から議論できた。
- ◆ 行政に期待する。市民が協力する意識をもたせるような政策づくり。
- ◆ 「コンパクトな市」であることが逗子の特徴だと思います。このコンパクトを生かした公共を考えたいものです。
- ◆ 職員の方と市・市民をまとめた組織について話してみたい。
- ◆ 逗子市は意外と市民と近い行政をしていると思った。
- ◆ 逗子を愛する人が多いですね。また、志が高い人が多い。逗子の多くの問題を次のステップに進める手立てが欲しい。まずはこのような場の先には、新たな“仕組み”“ネットワーク”等々ができると思う。
- ◆ 休日にかかわらず、多数の市民が参加していることに感心した。
- ◆ 毎回「逗子」を見つめ直すことができます。ゴミ捨て場の片付けなど続けていきます。

- ◆ 支援が必要な人間が支援を受けられる市政であってほしいという意見が印象に残りました。
- ◆ 実現が難しいとは思いますが目標としたいです。
- ◆ 多くの方の考え方や意見を聞けて良かったと思います。
- ◆ 「逗子らしい」という概念が最後まではっきりしないままだった。但し、大枠のイメージは各自良く似たものが多かった。何かそれを言い当てる明確な言葉が導き出せるといろいろな場面で議論がまとまりやすくなるのではないか。「〇〇な街 逗子」
- ◆ 市民が本気で逗子について考え、愛しているなど感じました。
- ◆ コンパクトな町であるので、もっと市民と行政の距離を短くし、素早い対応を求める。

7 第4回の感想



【「1. 満足」「2. やや満足」を選択した理由】

- ◆ 大変難しいテーマであり、解答を出すのが大変だった。
- ◆ 毎回グループが分かれますが、個々の人の入れ替わり、個々の意見があり勉強になります。
- ◆ いろいろな話が聞けた、言えた。
- ◆ 熱心に討議できて良かった。
- ◆ 話し合う時間に余裕があつて話し出すきっかけもスムーズに感じた。
- ◆ 20～90代まで広い世代で有意義な話ができる。
- ◆ 非常にためになりました。
- ◆ いろんな意見が聞けて良いです。

- ◆ 十分な協議時間があつて意見交換を深められました。
- ◆ 皆感じていること、考えていることが似ていることが分かった。
- ◆ それぞれの人がそれぞれの意見を言い合うことができた。
- ◆ 皆さんの意見を聞くことができたので。
- ◆ まだまだ理解できないことが多く、十分な満足感が得られませんでした。
- ◆ 話し合いの時間が十分取れたこと。
- ◆ 同じグループに考えが似ている人が4人中3人いたことです。
- ◆ 「公共」とは、という設定に答えるには程遠い。
- ◆ 逗子の課題や魅力を知るきっかけとなるから。
- ◆ 自由な意見交換が行えた。
- ◆ 「逗子らしい公共」もう少し具体化して欲しかった。焦点が定められなかった。
- ◆ 他の地域の方と話せてよかった。
- ◆ それぞれの地域での対応や話が自分の地域での今後の活動に役立つ。
- ◆ とても話しやすく、気づきもあるワークショップでした。
- ◆ 人数も程よく会話もはずみました。
- ◆ 話し合いの時間が十分取れたこと。
- ◆ 討議する時間がゆっくり取れた。
- ◆ 開催時間が14時では、一日の時間が有効に使えない。
- ◆ 逗子市内の他の地域の状況が知れたことが良かったと思います。
- ◆ ある程度年齢のバランスが良くて、あらゆる層の意見を聞くことができた。
- ◆ 十分な意見が言えたから。
- ◆ この会が次第に軌道に乗りつつある。喜ばしい。
- ◆ 普段思っていることを意見として言えるのは素晴らしいと思う。
- ◆ 今まで4回ワークショップでグループ討議により問題点についてまとめ、次回よりいよいよ条例問題に入る。
- ◆ 参加者最高！
- ◆ 少し抽象的に思った。
- ◆ 公共について考えを深めることができました。
- ◆ 知らなかったことを知ることができました。
- ◆ 話し合いの時間がきちんとあつて良い話し合いができたと思います。
- ◆ 議論の時間が割と長く、有意義な時間を過ごせた。
- ◆ 偏ることなく意見交換できる雰囲気だったこと。
- ◆ 公共とテーマが幅広い。

【「3. やや不満」「4. 不満」を選択した理由】

- ◆ 皆が良い人であれば問題ない。町内会に入らない人がいる。その人も含めた公共を作る考えは出なかった。
- ◆ テーマが具体的ではなく、話がうまくまとまらなかった。
- ◆ 3回目の出席ですが、今まで及びこれからの話し合いが、どのように条例に反映されるのかがあまり良く分からない。